



# 中学校再編を考える

将来の望ましい教育環境を目指して

令和6年9月30日  
胎内市教育委員会

去る8月25日(日)に、胎内市産業文化会館会議室において、「胎内市立中学校再編に係る説明会」が実施されました。以下に、その概要をお知らせします。

＜説明会次第＞		＜参加者＞	
1 開会のあいさつ (井畑市長)	3 質疑応答	胎内市民の皆様 24名	
2 教育委員会からの説明	4 閉会のあいさつ (中澤教育長)		

## 1 市長あいさつ



少子化は全国的な課題であり、胎内市も例外ではありません。およそ10年後には、1学級10人以下の状況となる学校も出てきます。子供たちの豊かな学びと健やかな成長のために、10年後を見据え、望ましい教育環境を今から考えていく必要があります。あくまでも子供たちを主役に、保護者の方々や市民の方々の考えを大切にしていきたいと思えます。

## 2 教育委員会の説明

胎内市立中学校の生徒数見込み (令和5年2月1日現在)

学年	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
中条中	125	2	150	2	122	2	368	
乙中	27	1	35	1	36	1	75	
築地中	22	1	35	1	20	1	70	
黒川中	195	1	210	1	184	1	330	
合計	269	5	330	5	342	5	843	
2034 (仮)								
中条中	105	2	110	2	114	2	305	
乙中	15	1	27	1	22	1	64	
築地中	16	1	22	1	15	1	50	
黒川中	11	1	9	1	16	1	36	
合計	147	5	168	5	167	5	455	

～ 2023(令和5)年度 ～

1校あたりは全校生徒数50人を下回り、1学年10人前後に減るところも出てくるね。

特に10年後には、今の市内の中学校の生徒数ほどのように維持していくのだから？

少子化により、特に乙中、築地中、黒川中では、現在の1学級20人程度の生徒数は、今後さらに減少の見込み。1学年10人前後に減るところも。

10年後には、1学年20人を大きく下回って、その後も減り続けていくみたいだから、やはり存続は難しいよね。



でも、ほかに将来の胎内市の中学生の望ましい教育環境は考えられないのかな。

小学校、中学校が一緒の校舎で学ぶ小中併設校はどうだろうか？

中条中はそのままで、乙中、築地中、黒川中の3校を統合する方法は？

中学校の生徒数の減少はそのまま続き、中学生同士の集団を通じた学習が難しいうえに、小学生の人数も減少していくため、併設後まもなく小中学校とも学校再編の検討が必要となるね。

3校を統合しても、すぐに生徒減による小規模校になってしまうね。

**結論** これから何十年も先のことを考えるとやはり4校統合が望ましいですね

令和2年～4年「胎内市立中学校適正規模検討委員会」令和5年「胎内市立中学校再編検討委員会」を開催し、幅広い立場の方々から、検討いただけてきた。

### 検討の結果・・・

**胎内市立中学校の統合に関する方針 (案)**

おおよそ10年後をめどに市内4中学校の統合を進めるために具体的協議を重ねてはどうか

但し、4中学校統合する場合は、以下の配慮が必要

- |            |            |              |
|------------|------------|--------------|
| 1 新しい校舎の建設 | 3 地域とのつながり | 5 中学校間の交流    |
| 2 設置場所の検討  | 4 きめ細かな教育  | 6 準備委員会の立ち上げ |

### 3 質疑応答



1点目は、当初は小中併設校という話が進んでいたと記憶している。4中学校統合となった場合、**地域とのつながりの拠点がなくなるのではないか**。2点目は**統合学校の建設予定地について、生涯学習センターとの関連**はどうか。3点目は**スクールバスの運行体制**について教えていただきたい。

1点目について、小中併設校も選択肢の一つですが、説明のとおり、急激な生徒の減少が続く中では実現は難しいと考えています。**学校は地域の財産であることを踏まえ、統合になったとしても地域との交流をより深めていく方策を探っていきたい**と思います。2点目の生涯学習センターとの関連については、中学校の再編とは別物であると捉えています。3点目のスクールバスの運行は、経費を抑えつつ、遠方の子供たちがダイレクトに学校に到着できるなど、**通学時間の差が少なくなるよう、最大限配慮したい**と考えています。



全国的に少子化というのは大きな問題である。市の少子化対策を考えたときに、「**子育てしやすい胎内市**」に向けた市の予算の思い切った振り分けが必要。また、Iターン、Uターンの人にとって、「**魅力ある胎内市**」となるような政策が必要ではないか。

**結婚にいたるまでの流れをできるだけ手厚く、魅力あるものとしていくことが大切**であると考えています。日本で一番大きいとも言える洋上風力発電プロジェクトが5年後に現実のものとなり、**大きな地域資源として、市の活性化に資することが期待**されます。多くの若い人たちが胎内市に住み、働いて、結婚、出産や育児に**夢と安心感、希望をもてるような地域風土**をつくっていくことが大切であると考えています。



これから先、子供の人口減少はおそらく止まらなると仮定した場合、20年後、30年後にも同様の問題が起こりうる。その度に**新しい学校を建設する**ということは、**あまりサステナブルではない**。空き校舎、教室といった**今ある資源の有効活用**を考えてはどうか。

将来、更に子供の人口が減っていくという懸念はありますが、**しっかりと将来を見据えながら、子供たちには活気があり、豊かな学びと成長がある方策**を考えていきたいと思います。今ある資源については、中学校の再編に限定せず、**地域活性化等に資する様々な活用**を考えていきたいです。



**4校統合ありきで話が進んでいる**と感じているが、**どうなのか確認**したい。

**統合ありきでは考えていません**。ぜひ誤解なきようお願いしたいのですが、**統合再編は考えないで見過ごしていい話ではない**ということ、**考えないことが許される状況ではない**ということ**を市民の皆さんとの共通の認識にしたい**というのが一番の思いです。



1点目、**1学級20名以上が望ましいとする根拠**。2点目は、小学生の人数も減っていくので先に**小学校を統合すべきではないか**。3点目は2019年実施の**アンケート結果では小中併設校が最も多く、4校統合が最も少なかった**が、これをどう捉えるか。4点目は、もう一度**アンケートなどで市民に意見を求めるべき**と思うがどうか。

1点目、20名以上というのは、**集団での多様な学びや学校行事の充実等を考えたときに、適切な人数の基準の一つとして**考えています。2点目について、**子供の発達段階の特性から、小学校はよりきめ細かな指導が適していること**に対して、中学校は**社会という集団の中で生きていくことを間近にしている年代**であり、多様な価値観に触れながら、仲間と切磋琢磨し、様々な経験を積み重ねていける教育環境を整えることが必要なことから、**中学校の再編を優先**しています。3点目の小中併設校については、**学校再編の選択肢の一つとして**考えておりましたが、**当初、急激な生徒数減少の現実の数字が、まだ明確に捉えられていない中で実施したアンケート**でしたので、**現在の状況に即した回答が十分に得られていない**ということをご理解いただきたいと考えております。また、関連して、**4点目のアンケートを再度実施することについては、今後、必要であればアンケートを実施することも検討**していきたいと考えています。

\*パブリックコメントに貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。  
市ホームページに回答を掲載しておりますので、右のQRコードより進み、ご覧ください。

